資料2-2

近畿気候変動適応茶業研究連絡会
活動報告

令和6年2月

一般財団法人日本気象協会

近畿気候変動適応茶業研究連絡会　令和5年度活動概要

- 適応アクションの実施主体である「近畿気候変動適応茶業研究連絡会」（茶業研究機関）の活動状況について、事務局（近畿地方環境事務所、日本気象協会）よりヒアリングを実施。（12月）
- ヒアリングした内容を近畿広域協議会に報告。（2月）

近畿気候変動適応茶業研究連絡会

- 茶業研究機関間で、気候変動に関連する技術課題や産地の近況を情報共有する。年に1回～数回開催。

茶業研究機関

- 滋賀県農業技術振興センター茶業指導所
- 京都府農林水産技術センター農林センター茶業研究所
- 奈良県農業研究開発センター大和茶研究センター

活動状況を報告

近畿広域協議会

必要に応じて交流

アドバイザー／オブザーバー

- 必要に応じて、気候変動やその他さまざまな観点からアドバイスや知見等を共有する。

（関連省庁、気候変動適応センター、自治体など）

意見交換メンバー

- 必要に応じて、必要な所と、意見交換・情報交換などを行う。

（茶生産者、農業研究機関、民間企業など）

アドバイザー：座長　京都先端科学大学バイオ環境学部　特任教授　藤井　孝夫（作物栄養学、土壌学）

お茶対策FU分科会　ヒアリング概要(1/2)

12月に実施した、近畿気候変動適応茶業研究連絡会（以下、連絡会）へのヒアリング概要について、以下に記載します。

■連絡会の活動状況について

- 今年度は令和5年12月7日に京都府茶業研究所にて14名で開催した。
- **各府県における試験研究の取組の情報交換**と、**現在直面している気候変動に関する課題**についての話し合いを実施した。
- 現状としては、**高温傾向があるが必ずしも萌芽期が前進しているわけではなく、むしろ気温の極端化のほうが問題である**と認識している。
- 気候変動影響への対応については各茶業研究機関とも苦慮している状況であるが、気温等のデータを基にした的確なタイミングでの病害虫防除や、耐凍性の予測を基にした防霜ファンの稼働制御などの研究が、徐々に進められてきている。
- 茶業研究機関間の連携については、今後すぐに共同研究を行うということは予定していないが、**連携を取ることによって研究を育てていき、交流を続けていくという方針**で各茶業研究機関とも意見は一致している。
- 全国的な流れとして、気候変動への対策、中でも特に凍霜害対策についての研究実施の流れがある。その面で、全国的に協力して研究を進めていくという可能性もある。

■アドバイザー／オブザーバー、意見交換メンバーとの交流の有無（または今後の予定）

- まだ検討に至っていないが、今後、アドバイザー等を加えることは考えられるかもしれない。
- 令和6年は奈良県大和茶研究センターで連絡会を行う予定だが、話題があれば何らかの交流を検討したい。

お茶対策FU分科会　ヒアリング概要(2/2)

■WMOによれば、令和5年は世界の平均気温が産業革命前の水準とくらべて+1.4℃（過去最高）であった。このような状況が続けば、お茶への影響はどの程度あるか。

- 今年は無降水の連続期間が19日だったのと、高温傾向が続き干ばつの影響があった。また、葉焼けや、新芽が伸びない等の影響もあった。このような影響があると、**適切な芽の数が確保できず、収穫量が減る。**
- **高温だけでなく、降雨が少ないことによるダブルパンチの影響がある。**高温であっても降雨があれば、影響はある程度緩和される。今年は、滋賀県でも秋の生育量が少なかった。
- 奈良県では、秋整枝した後の再萌芽が多かった印象がある。また、交信かく乱剤（フェロモン剤）によるコカクモンハマキ防除において、通常は夏以降まで薬剤が持つが、今年は猛暑で夏ごろに薬剤が切れてしまいその後に害虫被害が発生した。

■令和5年の凍霜害発生状況について

- 今年は、山城地域の凍霜害は無かったが、一部地域では、4月下旬の冷え込みによって霜害が発生し、一番茶の収穫を諦めるような状況があった。
- 滋賀県でも大規模な霜害はなかったが、4月下旬の冷え込みによって発育が抑制され、新芽の色が抜ける等、品質への影響があった。
- 奈良県も同様で、大きな霜害はなかった。